

平成 20 年 6 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007 年度 ～2008 年度

課題番号：19520114

研究課題名 (和文) 物語絵画における武士一表現の比較研究と作例のデータベース化

研究課題名 (英文) Bushi (Warriors) in Narrative Paintings — Construction of a Database and a Comparative Study of the Depictions

研究代表者

山本 陽子 (YAMAMOTO YOKO)

明星大学・造形芸術学部・准教授

研究者番号：20350283

研究成果の概要：日本の中世から近世にかけての絵巻物や絵本において、独特の描かれ方をすることが多い武士の顔貌や肉体表現の起源と状況を比較考察し、兜の下の目鼻立ちを描く手順と仏教美術の影響に因るところが多いことを指摘した。同時に研究対象の一部として撮影した、明星大学本『平家物語』絵本・『北野通夜物語』絵巻・『十番切』絵巻の挿絵・詞書を含む全図版に書誌・翻刻・挿絵解説を付け、奈良絵本・絵巻データベースとして WEB 公開した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	2,700,000 円	810,000 円	3,510,000 円
2008 年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000 円	960,000 円	4,160,000 円

研究分野：美学・美術史 美術史

科研費の分科・細目：美術史 (日本中世絵画史)

キーワード：物語絵画 武士 データベース 軍記物語 奈良絵本 平家物語 北野通夜物語 十番切

## 1. 研究開始当初の背景

絵巻において、貴人の顔貌表現の引目鉤鼻とは対照的な描き方として、武士の顔貌と肉体の表現がある。庶民層の自由闊達な描写とも異なる、見開いた目、大きな鼻と口、頬骨の出た骨格などは、全く別の発想や起源を持つのではないか。この表現は何を起源として、なぜ取り入れられ、どのような場合に用いられたのかを疑問とした。

近年、武士とは何かについての再考が行われ、絵画資料として絵巻を使ったものも多く見られる。ただしその多くが歴史家の視点から武士の意味や実態を追った考察である。

美術史家による武士の絵画表現についての考察は少なく、中世初期の特定の絵巻について述べたものに限られている。その顔貌表現についての言及はあるものの、起源や肉体

表現の全容については解明されていない。近世の武者表現に言及したものでは、その肉体の形態に触れられているが、対象は岩佐又兵衛および又兵衛派の作例などわずかである。

そこで、近世初期に中世の武士の物語を描いた絵巻の武士の表現について、絵師や物語の内容による差異を、肉体表現と顔貌からの比較検討を目指し、明星大学所蔵の近世初期の武士を主人公とした絵本や絵巻を用いて、林原本平家物語絵巻などとの比較対照を企画した。しかし、これらの作品は保存上の理由もあって非公開であった。特にこのうち絵本『平家物語』はWEB上での公開をめざして一部分を写真撮影したものの、WEB上での公開には至らず、書誌学的な考証も絵本史上の位置づけも行われないうちとなっていた。

## 2. 研究の目的

近世初期に中世の武士の物語を描いた絵巻における武士の表現が、同時代に描かれたものでも絵師によって、あるいは物語の内容によってどのように異なるのかを、主として『平家物語』をはじめとする諸作品の肉体表現と顔貌から比較検討する。さらにその起源と伝播、意味について、他の時代の武士の肉体表現と比較することにより、物語絵における武士の位置づけや物語絵の系統、その表現に影響を与えたものを、中国の物語挿画と仏教図像における武人表現の双方から追求することを予定している。

また一方で、書誌データと文字筆跡、挿絵の考証を伴った『平家物語』絵本全冊と『北野通夜物語』写真図版のデータベースをweb上で公開し、奈良絵本・絵巻の比較研究に寄与したいと考えている。

## 3. 研究の方法

### (1) (2007年度分)

まず矢吹道郎が、明星大学日野校において、奈良絵本『平家物語』(撮影済みの第二・三・四巻を除く)および『北野通夜物語』の撮影と、データベース構築に、着手する。その間に、山本陽子と柴田雅生は比較資料の作成と、予備調査を行う。

### (2) (2008年度分)

①矢吹はこれらデジタル画像について、明星大学日野校図書館と協力し、WEBによる公開への準備をする。研究成果や解説文などからの、該当ページへのリンクを作成する、精細な画像をネットワークの負荷を最小化して提供する技術の実装を行う。

柴田と山本は、前年度に撮影し作成された『平家物語』および『北野通夜物語』データベースに基づき、柴田は書誌データおよび文字筆跡の考証、山本は美術史側からの考証と、

これらと他絵巻における武士の肉体表現の比較を行う。

②矢吹が明星本『平家物語』と『北野通夜物語』の写真図版に、柴田と山本の考察を加えたデータベースをWEB上に公開し、また公開シンポジウムとして作品の紹介と検討を行う。

③柴田と山本は、まず作成された『平家物語』および『北野通夜物語』データベースにより、書誌学的および美術史的考証を行い、これらの近世の絵本・絵巻における位置づけを行う。

④山本はついで、昨年度に蓄積された、近世初期の他の絵本・絵巻資料における武士の肉体および顔貌表現との比較を行い、絵師、物語の内容、立場、人物像、性格などによる表現の差異について考察する。さらに、これらに影響を与えた図像として、当時の中国における物語挿絵等における武人表現、および仏教図像における金剛力士や諸天王などの表現との比較を試みる。

柴田と山本は『明星大学研究紀要』および『研究成果報告書』において、研究結果を活字として報告する。

## 4. 研究成果

### (1) (2007年度分)

①まず明星大学本『平家物語』絵本の未撮影分第四巻半ばから第十一巻を撮影した。『平家物語』の挿絵では、武士の描写が一般の合戦絵巻の武者表現と異なっていたので、同時代の明星大学本『北野通夜物語』絵巻と『十番切』絵巻を追加撮影した。山本の論文用の資料収集と同時に、データベース構築と公開に向けて、三者は以下の作業を行った。

②(山本)明星大学図書館蔵奈良絵本『平家物語』のうち、まず撮影済みの第二巻から第四巻の半ばまでについて、WEB公開のために全般的な挿絵に関する解説と、各挿絵に対する解説を書き、仮公開用の図版に付した。また一方で、これら軍記絵本の前史となる平安・鎌倉時代の説話絵巻と仏教絵画における、悪人・力士・鬼・仁王・護法武神などの筋肉表現を比較して考察し、その起源を大陸の仏教絵画に求めた論文「平安絵画における筋肉表現の受容と変容—武者絵以前の「瓢箪足に蚯蚓描」—」を著した。

③(柴田)『平家物語』については、翻字と校訂の作業が巻九初まで進行した。案の如く流布本系統の本文であることを確認し、明暦二年絵入り版本との本文異同および該本の文字表記上・言語上の特徴を考察するデータの収集と平行して、簡略な釈文の作成を行い、巻四まで完了させた(WEB上は巻三まで)。また、『北野通夜物語』については、翻字作業

を終え、西源院本太平記とほぼ同文の系統であることが確認された。『十番切』については、すでに釈文の作成を終えていたが、新規撮影写真に基づき改めて確認作業を行った。

④ (矢吹)『平家物語』については、すべての画像のデジタル化が完了し、ホームページ上での閲覧に適したサイズに変換されたものは、すべてサーバの運用に供されている。すべての検索のためのデータベースの構築はまだ終了していないが、画像検索の方針が策定され、一部検索可能となっている。検索は、巻からのサムネイル検索、巻から章段を指定してのサムネイル検索、登場する人名地名等からの検索が可能となっている。また、本文については、翻刻と漢字かな交じり表記の提示も可能となっている(三巻まで)。

## (2) (2008年度分)

①前年度に撮影した3作品のデータベース公開と、報告書の刊行を行い、山本はこれら三作品を含む各時代の絵巻・絵本の武士の顔貌の比較検討を論文とした。

今年度は研究協力者として近藤真子(美術史研究者)・大月千冬(共立女子大学非常勤講師)・出口久徳(立教大学新座中・高等学校教諭)の参加を得た。

②(データベース公開について)明星大学本『平家物語』・『北野通夜物語』・『十番切』の挿絵・詞書を含む全図版は、奈良絵本・絵巻のデータベースとすべく、柴田雅生による書誌・翻刻、山本陽子と近藤真子・大月千冬による挿絵解説等を伴って、矢吹道郎によりデータベース構築が行われ、2008年11月、「明星大学 奈良絵本・絵巻の世界—武士の物語 絵巻をよむ—」としてWEB公開された。

(<http://ehon-emaki.meisei-u.ac.jp/>)

③(公開シンポジウムについて)本ホームページ作成の成果を踏まえ、出口久徳を加えて、2008年11月22日、明星大学青梅校AV大講義室において公開シンポジウム「挿絵で読む平家物語—華麗なる奈良絵本・絵巻の世界—」を明星大学日本文学部言語文化学科との共催で行った。プログラムは以下の通りである。

- 一 明星大学所蔵の奈良絵本とそのWEB公開について 柴田雅生・矢吹道郎
- 二 明星大学所蔵『北野通夜物語』『十番切』絵巻の挿絵 近藤真子・大月千冬
- 三 明星大学所蔵『平家物語』絵本の挿絵 山本陽子
- 四 絵本としての『平家物語』 出口久徳
- 五 座談会

④(研究成果報告書について)データベース公開とシンポジウムの結果を踏まえ、成果は

報告書として平成21年3月にタマプリントより『物語絵画における武士—表現の比較研究と作例のデータベース化—平成19・20年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書』として出版された。目次は以下の通りである。

## 経過報告

- 『奈良絵本絵巻の世界』のWEB公開について 矢吹道郎  
小画面説話画における武者の肉体表現とその起源 山本陽子  
明星大学所蔵『十番切』絵巻の図様について 大月千冬  
明星大学所蔵『北野通夜物語』絵巻の図様 近藤真子

## 絵本としての平家物語

- 出口久徳  
明星大学図書館所蔵『平家物語』絵本の挿絵について 山本陽子  
附 林原本・明暦版本・真田本・明星本場面对照表  
明星大学所蔵絵本・絵巻の書誌とその言語的特徴 柴田雅生  
書誌・法量等データ  
カラー図版  
なお、同書のPDFファイルは、ホームページ内にも掲載した。

⑤(柴田と山本の論文について)柴田の「明星大学所蔵『平家物語』絵本における撥音表記についての一報告」は、同本詞書の撥音表記の行中における位置による仮名の使い分けの傾向を指摘したものである。

山本の「小画面説話画における武者の顔貌表現について」は、多くの合戦絵巻の武者の顔貌が、頬骨の出た角張った輪郭・見開いた目・大きい鼻と口等の共通する特徴を持つことを挙げ、これらの武士の顔の輪郭が途切れていることから、最初に輪郭が描かれる引目鉤鼻の顔とは手順が違い、兜の中に目鼻を描いた後で輪郭が描かれること、兜で隠れる眉の代償として目鼻立ちが大きく描かれることを指摘し、このような武者表現が受容される背景として、仏教絵画の金剛力士等の憤怒像の影響と近似を挙げるものである。

山本の「『平家物語』絵本・絵巻の挿絵について—明星大学図書館所蔵本を中心に—」は、明星本『平家物語』絵本を中心に、他の『平家物語』絵本・絵巻の挿絵とを比較し、その表現傾向の違いを考察したもので、林原本・明暦版本・真田本・明星本の場面对照表を付録とする。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

山本陽子「平安絵画における筋肉表現の受容と変容—武者絵以前の「瓢箪足に蚯蚓描」—」『明星大学紀要』【造形芸術学部】16号 pp. 27-34 (2008年3月)

柴田雅生「明星大学所蔵『平家物語』絵本における撥音表記についての一報告」『明星大学研究紀要』【日本文化学部・言語文化学科】17号 pp. 41-45 (2009年3月)

山本陽子「小画面説話画における武者の顔貌表現について」『明星大学研究紀要』【造形芸術学部】17号 pp. 31-39 (2009年3月)

山本陽子「『平家物語』絵本・絵巻の挿絵について—明星大学図書館所蔵本を中心に—附林原本・明暦版本・真田本・明星本場面对照表」『明星大学研究紀要』【日本文化学部・言語文化学科】17号 pp. 21-39 (2009年3月)

〔図書〕(計1件)

山本陽子・柴田雅生・矢吹道郎・近藤真子・大月千冬・出口久徳(出版 タマプリント)『物語絵画における武士—表現の比較研究と作例のデータベース化—平成19・20年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書』2009年3月、112頁

〔その他〕

WEB公開 データベース「奈良絵本・絵巻の世界—武士の物語絵巻を読む—」(2008年11月) <http://ehon-emaki.meisei-u.ac.jp/>

公開シンポジウム「挿絵で読む平家物語—華麗なる奈良絵本・絵巻の世界—」(2008年11月22日) 於明星大学青梅校

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山本陽子 (YAMAMOTO YOKO)  
明星大学・造形芸術学部・准教授  
研究者番号: 20350283

### (2) 研究分担者

柴田雅生 (SHIBATA MASAO)  
明星大学・日本文化学部・教授  
研究者番号: 30196430

矢吹道郎 (YABUKI MICHIROU)  
明星大学・情報学部・准教授  
研究者番号: 90166570

### (3) 研究協力者

近藤真子 (KONDOH CHIKAKO)  
美術史研究者

大月千冬 (OHTSUKI CHIFUYU)  
共立女子大学・非常勤講師

出口久徳 (DEGUCHI HISANORI)  
立教大学新座中・高等学校・教諭